

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名【新】早生樹活用推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-8490

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,780 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,780	0	0	0	0	0	0	0	2,780
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

① 主伐・再造林の低コスト化が期待される早生樹（コウヨウザンやセンダン、ヤナギ、早生桐等）の植栽について、全国的に関心が高まっている。早生樹を県内に導入するには、岐阜県の気候に適した樹種であるか調査し、施業体系を確立し、地域森林計画と市町村整備計画に造林樹種として位置付けることが必要である。早生桐については、県内の導入事例がないため、生育状況や、施業体系が不明な点などが課題となっている。

② コンテナ苗の培地については、1社を除く県内の殆どの生産者が外国産のヤシ殻を用いているが、国際情勢の不安定化によるヤシ殻の調達不安や、近年の品質劣化、価格上昇を鑑みると、今後のコンテナ苗の価格及び生産の安定化のためには、ヤシ殻に替わる資材の検討が必要である。

ヤシ殻の輸入が滞ることにより、造林用の苗木が大幅に不足し、森林の管理計画の頓挫等、甚大な影響を及ぼすことが想定される。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

① 本事業では、実証的な調査を通じて得られた結果を基に、県内での早生樹利用に向けた森林整備に必要な導入指針を策定する。

② ヤシ殻に替わる培地を開発し、苗の価格及び生産を安定化させる。

(イ) 内容

①早生樹生育調査

- ・早生樹の植栽（1箇所 約0.5ha）
- ・実証試験の生育調査 5カ所（R5年度～R8年度植栽地）
- ・実証試験報告書作成 1式

②早生樹苗育成資材の開発

- ・苗育成資材、技術の開発に関する研究経費

(3) 県負担・補助率の考え方

① 県 県の施業基準の策定のため

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
共済費	4	会計年度任用職員共済費
報酬	1,145	会計年度任用職員報酬
旅費	44	会計年度任用職員通勤費
	280	実証試験の調査費
燃料費	7	会計年度任用職員燃料費
委託料	1,100	早生樹の植栽
消耗品費	200	
合計	2,780	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、「第6章 施策の柱ごとの主な取組み」「イ100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり」「(b)多様な森林づくりの推進」により早生樹の施業技術の調査・研究を進めることとしている。

(2) 国・他県の状況

国や他県においても早生樹に関する研究事業や実践調査が行われているが、県内での調査事例はない。

(3) 後年度の財政負担

① 生育状況を継続的に調査する必要があるため、継続的に必要

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：森林・林業基本法第6条の県の責務にあたる。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ・多様で健全な森林への誘導や林業の成長産業化に向けて、早く大きく成長する早生樹のうち早生桐の導入に向け、県内に適した樹種の選定や、植栽立地、施業体系をまとめた導入指針を改訂する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R5年度 目標	R6年度 目標	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
導入指針改訂	なし	調査	調査	調査	調査	改訂	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	令和6年度当初予算にて追加	指標① 目標：指針一部策定 実績：策定中 達成率：20%
令和6年度	令和7年度当初予算にて追加	指標① 目標：指針一部策定 実績：策定中 達成率：40%
令和7年度	令和8年度当初予算にて追加	指標① 目標：指針一部策定 実績：策定中 達成率：60%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	<ul style="list-style-type: none"> ・多様で健全な森林への誘導や林業の成長産業化に向け、早く大きく成長する早生樹への期待が高まっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・実証試験施工地の確保

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・実証試験地を増やし早生樹の適合性を検証することで、最終的に早生樹の導入指針策定に資する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	なし
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	